

国内事業報告

報告:岩田雅子
(LIFE理事)

オンライン料理教室、ゆる~く開催中です

これからはオンラインを活用してもっとLIFEの活動やインド・インドネシアの様子を発信していく!ということで始めたオンライン料理教室。今年は1月、2月、8月に開催しました。会員の方はもちろん、LIFEのことを初めて知ったという方にもご参加いただけたのはとてもありがたく、これからもがんばって継続していくと思っています。8月にはインドのビリヤニを教えてもらいましたが、見たこともないスパイスや生のコリアンダーを使って炊き込みご飯のように作っていく様子はとても興味深く、そのあと自分で手に入る材料でアレンジして何度も作ってみました。

LIFEのyoutubeチャンネルには、料理教室のはか、活動内容やボランティアについての動画もアップロードされてますのでぜひご視聴、チャンネル登録を宜しくお願いします。
<https://www.youtube.com/channel/UCzvSfpvhkz4pMwoALukedAg/videos>



登録お願いします!!



LIFEイベント告知サイト



<https://life-report.net/>

編集後記

会社の出張でインドネシアに来ています。この2年間で大分ジャカルタの雰囲気も変わりました。例えば、GOJEKやGrabと呼ばれるアプリで簡単にタクシーが呼べて、しかも料金は事前に決まり、支払いもカード払いもできるので、お金のやり取りもなく降車もスムーズです。バイクもあり、時間にもよりますが3kmほどの距離を約50円とかで移動可能です。このようなサービスはアジア各国で始まっており、日本だけが規制の影響でサービスができず、時代から取り残されている気がします。またレストランに入ればメニューは全てQRコードとなっており、できるだけ接触リスクを抑える対策が行われています。進化していくアジアの潮流を肌で感じています。(LIFE理事・上村真)

▼第86号を作った人たち

宮沢暉、平塚航、上村真、岩田雅子、米山麻裕、佐藤静香、古賀麻美

会員を募集しています。

会員になると――

- ・会員「みらいの樹」をお届けします。
- ・イベント・催し物などのご案内をお届けします。
- ・国際協力関連の図書、資料などを閲覧できます。
- ・正会員は年次総会での議決権があります。

会員の種類と年会費――

- ・正会員:個人12,000円、団体20,000円 ・賛助会員:6,000円
- ・会費は寄付金控除の対象外です。

マンスリーサポーターを募集しています。

マンスリーサポーターになると――

- ・継続的にLIFEの活動をサポートできます。
- ・月々のサポート金額1,000円～、任意の金額を設定できます。
- ・クレジットカードからの自動引き落としです。

手続きは――

オンライン寄付サイトGiveOne(ギブワン)で。
<https://giveone.net/>

会費・寄付のお振込みについて

ご寄付は毎時受け付けています。用途の指定のないご寄付の他、事業内容や国を指定したご寄付も可能です。事務所までお気軽にお尋ねください、毎月の引き落としもできます。

振込先: ゆうちょ銀行 019支店 当座 0400590【00180-9-400590】
特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

※会費をお振込みの方や領収書の発行を希望される方は必ず払込番号等でご連絡先を事務局にお伝えください。

LIFEは認定を受けました。

2021年12月13日からのご寄付は寄付金控除の対象となります。



認定NPO法人 地球の友と歩む会 LIFE: Live with Friends on the Earth
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2東京三井ビル503号
TEL.03-3261-7855 FAX.03-3261-9051 E-mail:lifef@earth-npo.jp



地球の友と歩む会/LIFE会報
発行人: 鈴山計三
発 行: 認定NPO法人
地球の友と歩む会/LIFE

No 86 2022年 12月発行

LIFE : Live with Friends on the Earth みらいの樹



マンガロープを植林する地元の小学生



LIFEの実

平塚航さん

私とLIFEとの出会いは、大学生の時にインドのスタディツアに参加したことでした。その出会いをきっかけにLIFEでインターンさせていただき、スタディツアーサポートメンバーとしてのインドネシアへの同行や、開発教育教材の作成、国際協力フェスティバル(現「グローバルフェスティバルJAPAN」)などの国際協力イベントへの参加など、数多くの貴重な経験を、当時の愉快なインターナショナル経験と過ごすことができました。

今は出入国在留管理課の職員として、外国人との共生社会の実現に向けた様々な取組を行っています。困難なこともありますですが、当時のLIFEで出会った職員の方々を始め、インターン仲間、ツアーメンバー、現地スタッフやツアー先での交流などを通して得られた経験に支えられがんばることができ、LIFEには感謝の気持ちでいっぱいです。

インド文化紹介

～インド人は毎日カレーを食べている～

この地で暮しを始めるまで一種のステレオタイプだと思っていたが、これは事実であった。農場のほとんどがインド人スタッフは、昼食にカレーとチャバティを詰めて毎日持参している。外食でカレー以外の食事をした後も、彼らは締めで必ずカレーを食べる。日本人から見ると、ほとんど毎日同じものを食べている様にしか見えない。一方、私が住むガルガオンでは、イタリアン、ファストフード、日本食、各国のレストランが軒並みおり、インド人の若者、富裕層を多く見かける。クオリティも高く、インド料理を一切食べなくても生活には全く困らない。先日エレベーターで隣り合わせたインド人の祖父と子供の会話のやり取りが聞こえてきて、「何の食べ物が好きか」という祖父からの質問に、その子供は「ビザとパスタ」と答えていた。何気ないやり取りだったが、強く印象に残った。近い将来、「インド人のカレー離れ」が遙がり始めるのかも知れない。宮沢暉

ご寄付・ご協力ありがとうございます。※2022年4月1日～2022年10月31日まで

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------|
| ■正会員(個人・団体)7名 | ■賛助会員17名 | ■マンスリーサポーター名 |
| ■インド継続寄付3名 | ■インドネシア指定寄付7名 | ■インド教育ローン指定寄付1名 |
| ■無指定・ひまわり募金94名 | | |

■きしょん募金名 1名 ■インターネット・シップ参加1名 ■ボランティア参加200組以上

■ブライダル・引出物の組合せから名前は組合せのひじりあります。ご了承下さい。

LIFEは認定を受けました。2021年12月13日からのご寄付は寄付金控除の対象となります。

インド事業報告

報告:米山敏裕
(LIFE事務局長)

2年ぶりのインド渡航

7月には2年ぶりにインドに渡航し、事業地を視察してきました。2か村の農家では継続的に有機農業がおこなわれていて大きな成果を上げていました。いくつか紹介します。耕作地を広げて水田にして米作りをしている農家、牛糞を用いて有機肥料をつくり施肥しバナナ栽培で大きな収入を得ている農家、5年前から始めたガヴァという果樹の収穫が定期的に毎月20Kgできるようになった農家、フォローアップで農産物を搾油する技能を修得しましたが今では10の農家が落花生を栽培し、食用油に搾油して瓶詰にして出荷していました。これらの成果が県の農業局に評価されてこの11月からマッシュルームの栽培をおこなう施設の建設費が補助されたり、果樹の加工工房の施設建設費がそれぞれ政府から補助されていました。これらは定期的に現地NGOスタッフが事業終了後もアドバイスをおこなってきた成果といえます。

持ち上がった課題

一方課題もあり、2か村の事業地で10基削除した井戸も3基が故障で使えなくなっていました。それぞれ機械の部品が破損して水を汲み上げることができない状態となっていました。写真の村では3か月間ほど使えなくなり1km離れた水場に取りにいっているよう早く修理して欲しいと訴えていました。10軒が共同で維持管理にあたることになっていましたが修理代の負担ができないよう頓挫しているとのことでした。対策としては現地スタッフが農家の人たちと協議して対応していくことになりました。最終的にはLIFEから修理費の一部を補助することになりました。



▲▼SHGメンバーが栽培方法について研修を受けて管理を担当します。



▼白いキノコはオイスター・マッシュルームといってカロリーも少なく、健康にいいという触れ込みでデインディグル市内のオーガニックショップ、ホテルレストラン結婚式場などに出荷しています。



インドネシア事業報告

報告:古賀麻美
(LIFE職員)

3年ぶりにスンバ島へ出張しました。ワインガブに着いてみると、空港の建物は工事中でした。今年6月にインドネシアのジョコ大統領がワインガブの空港を見てあまりにも小さく設備のないことに驚き、リニューアルするよう指示をしたそうです。また、町中の目抜き通りを車で通ると、3階建ての新しいビルがいくつか目に留りました。町の様子が少しずつ変わっているのを見て、3年という月日が経ったんだなあと実感しました。今回の出張は、マンゴローブの専門家に現地を見て頂きアドバイスを受けることと、植林ボランティアに参加する会員さんたちの比率が目的でした。

マンゴロープの植林

昨年度より日中友好会館様の「日中植林・植樹国際連携事業」から助成を頂き、今年は2年目になります。昨年はコロナの影響で渡航ができませんでしたが、今回はマンゴロープに詳しい工学院大学の酒井裕司先生にお願いし、私たちの植林活動にご助言とご指導を頂くことができました。私たちが植林しているヒルギ系のマンゴロープの適切な植林間隔や植林場所などを現地NGOのラジオMAXと共に学ぶことができました。ラジオMAX代表のヘンリックさんは、これまでやってきた活動を専門家に評価してもらえたこと、また今後より良く植林活動をするためのアドバイスをもらえたことをとても喜んでいました。専門家の現地視察という貴重な機会を頂き、日中友好会館様に感謝申し上げます。

また、今回は植林ボランティアということで、LIFEの会員さん方も一緒に渡航しました。早くコロナが収束し、これまでのように定期的に植林ワークキャンプを開催できるようになることを願っています。



栄養改善事業

味の素ファンデーション様からの助成で昨年4月に始まった栄養改善事業は現在2年目となりました。今年度は、1年目の事業で分かった不足している動物性たんぱく質を得られるようになるために魚の養殖をはじめています。(写真:左上)また、アドバイザーの小児科のお医者さんと管理栄養士さんから、「果物の栄養を摂れたら更にいいね」というご意見を頂いたので、パパイヤなどの果樹を植林します。(写真:左下)

それから、アドバイザーの管理栄養士さんから子どもたちに提供する食事についてご指導を頂きました。指導を受けた現地NGOの指示の下事業地では肉や魚、野菜、果物を使った食事を毎月調理し子どもたちに提供しています。



飼料用トウモロコシ支援

世界のトウモロコシの価格は長引く戦争の影響で高騰しています。トウモロコシの40%を海外からの輸入に頼るインドネシアには大きな負担となっています。そこで、ジョコ大統領は、インドネシア国内での供給を増やすよう奨励しています。スンバ島は主食がトウモロコシのため、ほとんどの村人はトウモロコシの栽培をすることができます。問題は、村人たちがトウモロコシが必要のある作物だと信じられず、家族が食べる分しか栽培しようとしていることです。現地NGOラジオMAXは、飼料用トウモロコシを大々的に栽培し販売してみることにより、村人たちにトウモロコシは売れる作物であることを分かってもらえるよう画策しています。→栽培予定地